

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年11月24日

【評価実施概要】

事業所番号	0172902041		
法人名	株式会社 ケアクオリティ北海道		
事業所名	グループホーム ななかまど		
所在地	北海道旭川市緑町19丁目2656番地1 (電話) 0166-51-0717		
評価機関名	タンジント株式会社		
所在地	北海道旭川市緑が丘東1条3丁目1-6 旭川リサーチセンター内		
訪問調査日	平成20年11月15日	評価確定日	平成20年11月25日

【情報提供票より】(平成20年10月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)17年3月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	19 人	常勤	16人, 非常勤 3人, 常勤換算 15.9人

(2) 建物概要

建物構造	準耐火	造り
	2階建ての	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	28,000 円	その他の経費(月額)	25,000~33,000 円
敷金	有(円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	300 円	昼食 300 円
	夕食	460 円	おやつ 円
	または1日当たり 1,060 円		

(4) 利用者の概要(10月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	5 名	女性	13 名
要介護1	3 名	要介護2	6 名		
要介護3	4 名	要介護4	3 名		
要介護5	2 名	要支援2			
年齢	平均 83.66 歳	最低	72 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	むらい内科クリニック 太田歯科医院 にしきまち通りクリニック 真口内科小児科医院
---------	---

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームななかまどは利用者の「尊厳と誇り・生きがいを大切に・・・」を理念をつくりあげている。運営は旭川在住者と旭川出身の医療・福祉関係者によって平成17年3月に開設し、グループホームを運営する(株)日本ケアクオリティからの運営協力のもとに事業展開を行っている。本年7月に管理者の異動により、近くの施設や他事業所とのネットワークの構築に取り組むなど、新たな展開を模索している様子が見ええた。ホーム内は観葉植物などの配置もほど良く、落ち着いた空間となっている。趣味への支援、音楽療法やボランティアの受け入れに積極的な姿勢を感じることができた。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回評価での改善課題として、施設内研修の充実、運営推進委員が参加した火災避難訓練・交通事故対策・介護についての事例講習会があげられていたが、管理者の異動により交通事故対策などは未実施であるが、AEDを設置し地域の人々とともに講習会するなど改善の努力が感じられた。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 自己評価にあたり、職員会議にてそれぞれ意見を出し合い検討し、取り組みの機会としている。今後は管理者が率先し全職員と共に自己評価及び外部評価を活かした取り組みの実践を期待します。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6) 運営推進会議は住民センターで行われ、熱中症・食中毒・認知症への対応などについて話し合われている。新しい管理者のもとで、今後は定期的開催や事業所に対する地域の理解を深める考えであり、地域住民と更なる連携の姿が見ええた。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8) 家族からの意見は全職員が気軽な会話ができるような雰囲気を作り上げ、利用者の日常の暮らしぶりやホーム行事参加の様子についても報告している。またケアプランの見直し時にも家族に見ていただき、同意を得るなどしケアサービスに活かされている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域のふれあい運動の参加を通じて地域の人達との交流が図られている。また近隣への散歩や食事処への外食、ボランティアの受け入れなど日常生活を通じて地域との連携が行われている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設時に職員間で話し合い、利用者の尊厳と誇りを大切にし、地域社会の中でその人らしく笑顔で過ごせるようなケアのスタンスとした理念をつくりあげている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	7月に管理者などの体制が変わって間もないが、運営者のコンセプトを深めるべく方向に向けた取り組みに臨んでいる。	○	折りに触れて理念・運営方針について話し合いの実施を重ね、スタッフが共通の認識が持てるような具体化を期待します。
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しており、ホーム開催の祭りには地域の方々に声をかけ、また小学校の下校時の見守り活動への参加をしている。また冬には近隣の食事処店主が除雪のお手伝いをしてくれるなど、地域の人達との交流が図られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員は自己評価及び外部評価を実施することの意義を理解するべく方向に向けて現在、それらのことを踏まえて具体的な改善に取り組んでいる。	○	今後は管理者が率先し、自己評価及び外部評価の意義をより理解し、全職員と共に評価を活かした取り組みの実践を期待します。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進委員は家族、町内会役員、知見を有する有識者、法人代表者及び管理者・職員で開催され、認知症への対応・食中毒・熱中症対策など話し合われ意見交換されている。</p>		<p>今後は定期的な運営推進会議の開催で、より幅広い人々の参加のもと具体的な内容について話し合いを行い、サービスの向上に活かしていくことが望まれます。</p>
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市などで開催される研修会等にも参加し、また食事メニューなどを相談するなど、サービスの質の向上に取り組んでいる。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>日常の様子や健康状態については職員より面会時に報告している。緊急な事態においては都度迅速な対応が行われ、金銭管理も適切に行われている。</p>		<p>今後は定期的に「たより」を発行し、職員の紹介や運営推進会議の内容など、家族に報告していくことを期待します。</p>
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>日常的に気軽な会話ができる雰囲気を作り上げている。またユニットごとに意見箱を設置するなど意見や苦情を表せる機会を設けている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>各ユニットの職員を固定し、馴染みの職員でケアしている。管理者は離職者を出さないよう努力し、代わる場合においても入居者へのダメージを極力防ぐ配慮をしている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>グループホーム協議会などの研修会へ参加し、介護福祉士などの資格取得へのバックアップ体制もとられており、職員の育成に努めている。</p>	○	<p>新しい職員に対しては業務OJTなどを活用し、系統的な育成を期待します。また中堅職員には認知症ケア専門士などの取得に向け、更なるスキルアップが望まれます。</p>
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>他グループホームのケアマネージャーとの情報交換やグループホーム協議会での勉強会や交流などを積極的に行い、サービスの質の向上につながるような取り組みをしている。</p>		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前には本人・家族にホームを見ていただき、遠方や入院等で来所が困難な場合は管理者等が病院や自宅へ出向き、本人が安心・納得したうえでサービスが利用できるような配慮や工夫をしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>モップ掛けやフキンを縫っていただいたり、台所では調理の下ごしらえ・食器洗いなど自発的に職員と一緒にされている。また野菜作りの際にも利用者からのアドバイスをもらうなど、一緒に過ごしながらか支え合う関係を築いている。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	一人ひとりの意向や希望の把握に努め、自由にエレクトーンを弾いたり、ちぎり絵や編み物を楽しむなど、それぞれの思いでの暮らしを支援している。また本人の誕生日に合わせ好きな物を提供したり、行事にはお酒も出され、本人の思いを尊重する支援をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	6ヵ月毎のカンファレンスにおいては日頃のミーティングでの職員の声や本人の希望・家族からの意見及び主治医からの助言など、それぞれの意見が反映された介護計画となっている。		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	職員、関係機関の意見をもとに6ヵ月毎のプラン見直しと、状況変化時には都度見直しが行われている。その際家族にも見ていただき同意を得ている。		
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	かかりつけ病院への通院の際においては家族の要望にも対応し、週3回の透析についてもホームでの送迎が行われている。また本人希望時の買物の付き添いや家族の宿泊、食事も気軽に利用していただけるような取り組みもしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ病院への通院の支援と協力病院からの往診も月2回行われている。また常勤の看護師により、入居者の体調管理及び主治医との連携が適切に行われるなど、医療活用の支援が行われている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医師と連携して利用者・家族とも段階的に相談し合いながら慎重に検討対応するよう職員間で共有される取り組みがされている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ホーム内で掲示される写真や表札においても、本人・家族の同意を得ている。また排泄時の誘導においては、小声で声かけを行い、職員同士の会話も利用者へのプライバシーを損ねることのないよう配慮している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や買い物も本人の希望を優先順位に考え、ペットの猫と一緒に居室で過ごすことや趣味においても一人ひとりのペースを大切にしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の嗜好品や医療面で禁じられている食品名などを把握し、十分な気配りがされている。また食事は職員も一緒に摂ることで共通の話題で和やかな雰囲気となっている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は基本的に週2回の午後となっているが要望に応じ午前に行ったり、入浴台を用いるなど個々に合わせた柔軟な支援がなされている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者の負担にならないよう役割は決めず、その時々で声を掛け合い、楽しみながら行えるよう配慮している。またセンター方式の活用で一人ひとりの生活歴も把握され、入居者のエレクトーン演奏に合わせて職員が歌うなど気晴らしの支援がされている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や散歩、また電車や近所のガーデニングを見に行くなど、日常的な外出支援が行われている。その他、近くの施設で行われている音楽療法にも定期的に参加し、その日の希望に応じられるような柔軟な体制づくりもされている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	施錠は夜間のみであり、日中や各居室での施錠はなく開放的な雰囲気となっている。安全面においては職員の見守り、見守りが行われている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>年2回の避難訓練実施と利用者の安全な誘導や搬送方法、及び消火器の使用体験なども行っている。また町内会との緊急連絡網にて災害時の協力を働きかけている。</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>水分・食事摂取量も個人ごとにチェックが行われ、栄養バランスやカロリーについては年1回保健所の管理栄養士と週1回医療機関看護師によるアドバイスや指導を受けながら支援されている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家庭的なリビングには、畳の小上がりスペースがあり、お昼寝やトランプを楽しむなどで活用されている。また観葉植物などの配置もほど良く、落ち着いた空間となっている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>本人の希望に応じ、使い慣れた馴染みの家具や仏壇が持ち込まれている。またペットも相談に応じ可能であり、自宅での延長そのものとなっている。</p>		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。